

アドバンスト施設による 次世代介護機器導入事例



施設名：社会福祉法人 共助会
[特別養護老人ホーム福寿園ひばりが丘]

本日お話しする内容

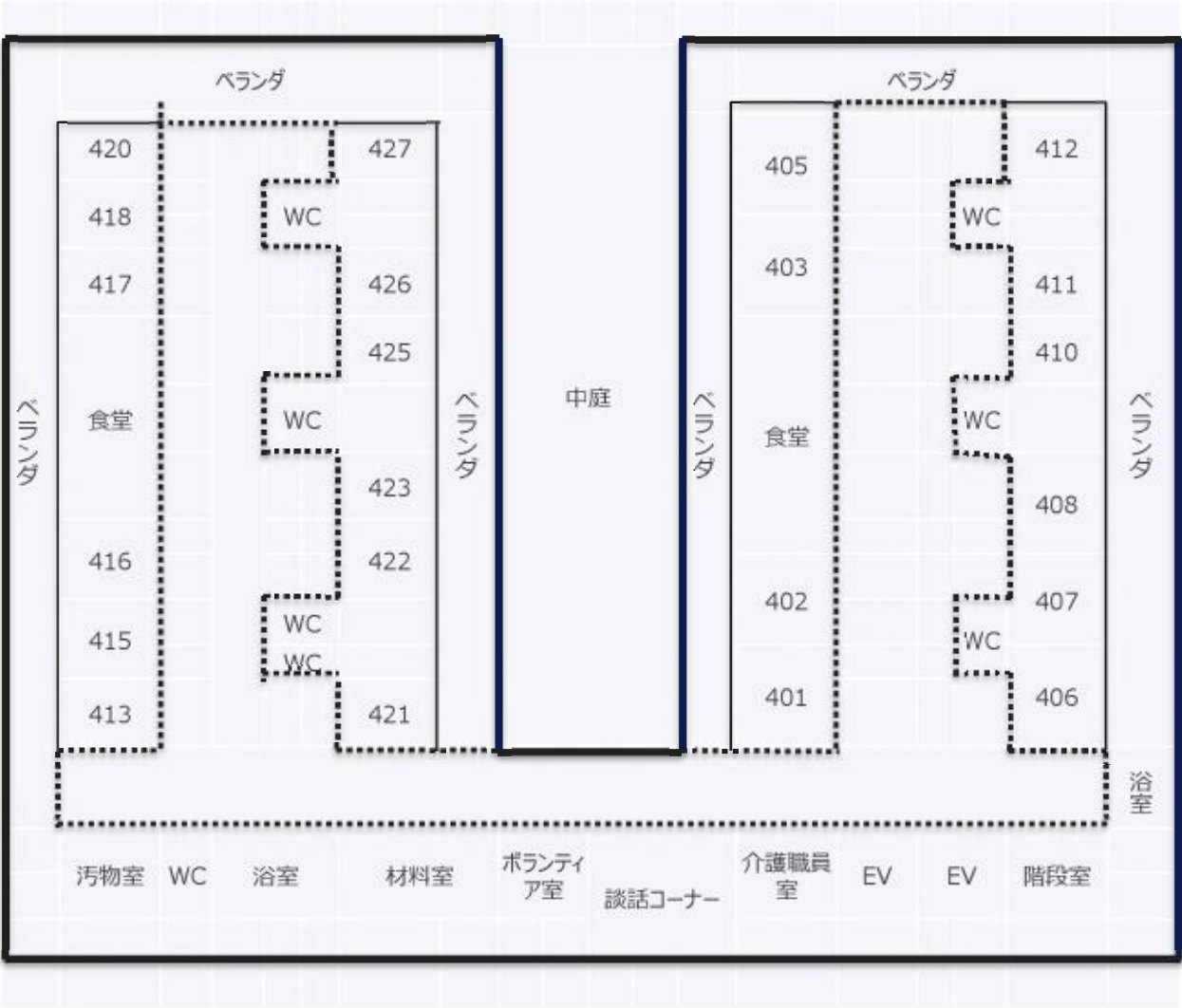
- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- 取組内容（手順 1 ～ 6）
- 導入関わった職員が機器を活用して良かったと感じたこと
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

施設概要

運営法人	社会福祉法人共助会
施設名	特別養護老人ホーム福寿園ひばりが丘
所在地	東京都西東京市ひばりが丘3-1-18
定員	入居88名 短期入所10名
平均介護度	3.9
職員数	83名（内ケアワーカー 57名）
特徴	平成24年に開設された介護老人福祉施設です。周りは閑静な住宅街でスポーツ広場もあり落ち着いた環境の中に建っています。



施設概要



導入した次世代介護機器

メーカー名：	マッスル株式会社
機器名	ロボヘルパー-SASUKE
台数	2台



導入の手順

導入の6つの手順

手順 1	改善活動の準備をしよう	● 情報収集 ● 取組に対する組織全体での合意形成 ● 実施体制の整備
手順 2	現場の課題を 見える化しよう	● 課題の見える化
手順 3	実行計画を 立てよう	● 導入計画づくり ● 対象利用者の選定
手順 4	改善活動に 取り組もう	● 導入準備 ● 次世代介護機器の活用 ● 小さな改善活動
手順 5	改善活動を 振り返ろう	● 効果検証 ● 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析
手順 6	実行計画を 練り直そう	● 実行計画の練り直し

手順1～3

取組期間：約3カ月

取組実施者：約5名

(職種：介護・看護・機能訓練・
ケアマネ)

手順4～6

取組期間：約9か月

取組実施者：約9名

(職種：介護・看護・
機能訓練・ケアマネ)

出典：「介護ロボットのパッケージ導入モデル（改訂版）」をもとに作成

手順 1 : 改善活動の準備をしよう

取組期間：R5.12月4日～

手順 1

- 情報収集
- 取組に対する組織全体での合意形成
- 実施体制の整備

● 情報収集

- ・介護機器取扱業者への聞き取りと見学
(SASUKEや床走行リフトを取り扱っている業者の協力を得て見学。)

● 取組に対する組織全体での合意形成

- ・施設内の合意形成の場である運営連絡会議において移乗機器を導入する目的や、組織としてのあり方などを説明し合意形成を図った。

● 実施体制の整備

	役職	チーム内での役割		役職	チーム内での役割
1	施設長	統括責任者	1	ケアスタッフ	技術・調査担当
2	介護支援専門員	プロジェクトリーダー・ 入居者様家族への説明	2	ケアスタッフ	技術・調査担当
3	看護課長	リスク管理担当	3	ケアスタッフ	技術・調査担当
4	機能訓練指導員	リスク管理担当	4		
5	フロアリーダー	研修・マニュアル・運用ルール・技術担当	5		
6	フロアサブリーダー	研修・マニュアル・運用ルール・技術担当	6		

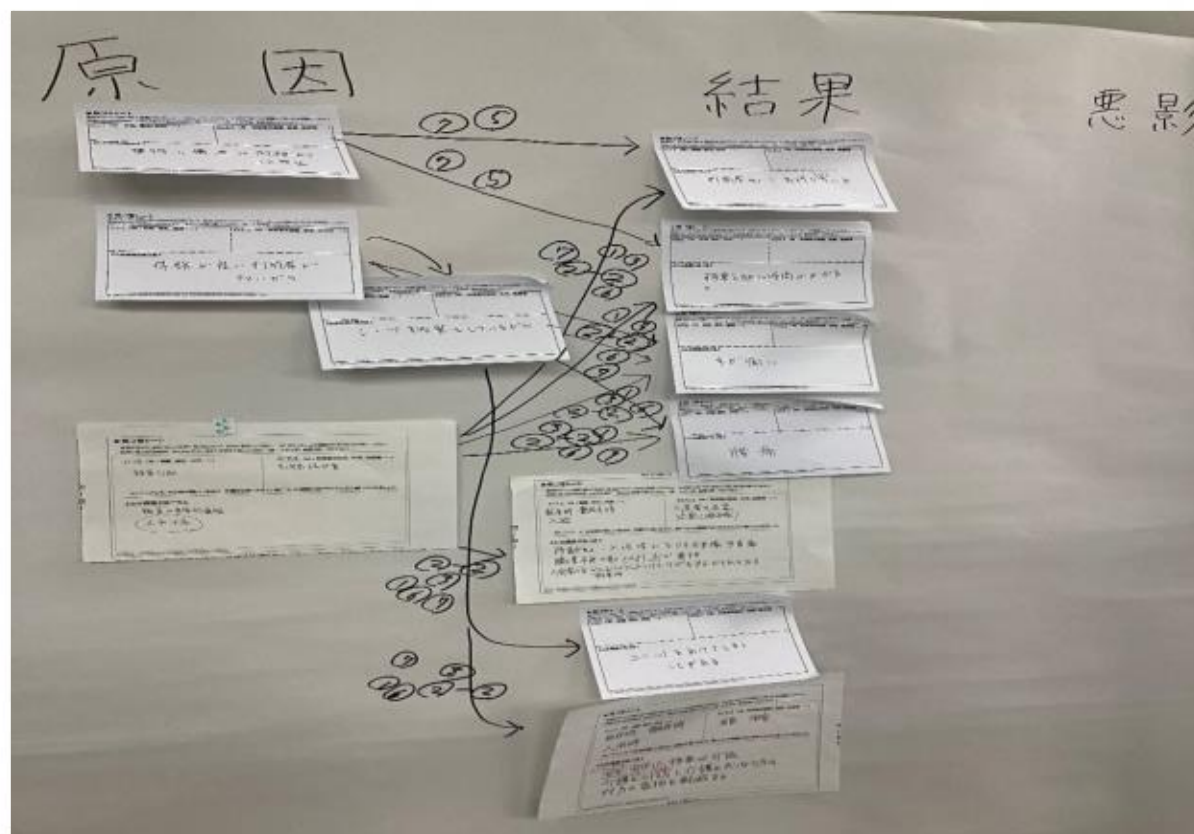
手順 2 : 現場の課題を見える化しよう

取組期間 : 12月14日～

手順
2

- 課題の見える化

● 課題の見える化



手順 3：実行計画を立てよう

取組期間：12月22日～1月20日

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 導入計画づくり

□ 課題解決に向けた道筋

目的：①職員の体への負担を少なく介助したい

②移乗時にご利用者様にけがや精神的負担を与えない。

道筋：SASUKEを導入することで移乗時の職員の負担と入居者様の負傷リスクの外的要因を少なくすることができ、安心した生活を送っていただける。

□ 導入する次世代介護機器

種類：移乗介助

機器：ロボヘルパーSASUKE

台数：2台

□ 成果指標

目標：職員の移乗の際の身体的・精神的負担を軽減させる

指標：①職員への定期的なアンケート実施

②職員の1日の歩数の変化

③移乗の準備から終了までの時間の変化

手順 3 : 実行計画を立てよう

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 対象利用者の選定

□ 選定した利用者 (3名)

- ①骨折等によりリフト移乗でも移乗が難しい方
- ②体格がよく拘縮が強い方
- ③移乗時にご利用者様の精神的負担となっている方

□ 選定理由

- ①骨折により保存療法となっている為、リフト移乗には向かない。
- ②体格がよく拘縮も強い為、2人介助でのシーツ移乗に負担がある。
- ③シーツ移乗時に「怖い」と仰っていた。

□ 選定する際に留意した点

- ・移乗介助の際、同介護者同士で同じやり方での移乗を行っても訴えが統一されている方。
- ・骨折でも、検証中に歩行や半介助までに回復されない方。

手順 4：改善活動に取り組もう

取組期間：R5 12月22日～R6 3月1日

手順 4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな改善活動

● 導入準備

- 1) 職員への機器導入経緯と理由の説明（書面で配布）
- 2) マッスル(株)に来園してもらい実演をお願いした。（12/22）
- 3) 機器使用対象者の選定及びご家族の同意の取得（12/24）
- 4) マニュアルの準備
- 5) 職員同士による練習

手順4：改善活動に取り組もう

取組期間：12月22日～3月10日

手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな改善活動

● 次世代介護機器の活用

□ 「効果的に活用するコツ」

- ・ マニュアルの準備
- ・ 職員同士による練習
- ・ プロジェクトメンバーで、実際にご利用者様に体験してもらいリスクを洗い出した
- ・ 再度マッスル社に来園して頂いた
- ・ SASUKE付属クッションに滑りにくい素材でカバーを作り使用

□ 「効果的に活用できなかった原因」

- ①職員同士の練習を続けて行うことが出来なかった為、次の練習では1からの状態になってしまった。
- ②ご利用者様の状況の変化に伴い車椅子を変更したことにより、SASUKEの設定変更が上手くいかなくなり、丁度よい位置を探すことから始めることになってしまった。

手順 4：改善活動に取り組もう

取組期間：10月1日～10月31日

手順 4

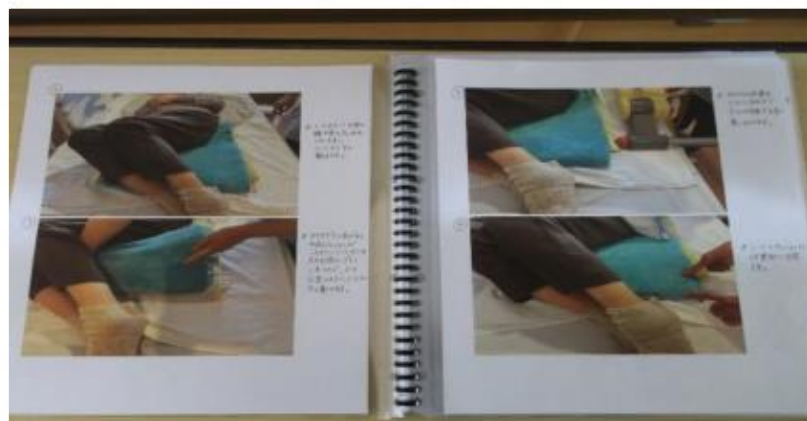
- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな改善活動

● 小さな改善活動

□ 改善活動の内容

- ・ 機器使用に慣れて実際に活用できる職員から「ココを押さえることが重要」というポイントだけに絞った詳細版のマニュアルを作った。

□ 改善活動の共有方法



手順 5：改善活動を振り返ろう

取組期間：11月10日～11月30日

手順 5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 効果検証

①職員1日の歩数の変化

（日勤の場合）

SASUKE導入前に比べ、導入後は1000～2000歩弱、歩数が減少した。

（夜勤の場合）

SASUKE導入前に比べて2000歩位歩数が減少した。

②職員の身体的・精神的負担感

身体面：手首の痛みがなくなった。

精神面：隣ユニットの動きを気にしなくてよい分、精神的に楽になった。

シーツが破れないか心配しなくてよかったので不安感が減った。

③ご入居者様の様子の変化

介助時の表情が硬かったり「怖い～」などの声が聞かれていたが、表情・声が変わった。

手順 5：改善活動を振り返ろう

取組期間：11月30日～12月10日

手順 5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 上手くいった、いかなかった点の整理・分析

□ 上手くいった点・その要因

- ・ SASUKE販売業者さんに2度も来園して頂き、実演による研修をフロア職員に直接して頂いたことは、職員のモチベーションも上がったと思う。
- ・ モデルフロアの職員が、リーダー・サブリーダーを中心に皆さんが協力して下さったことで、使用中の問題点の発見や改善すべきところと一緒に考えてもらえアンケートにも積極的に感じたことを伝えてもらえた。

□ 上手くいかなかった点・その要因

- ・ 職員が慣れない時点での車椅子の変更をしてしまった為、車椅子をセットしSASUKEのアームを下ろす位置が変わりOJTが上手く進まなかった。
- ・ 成果の指標の内容で、移乗の準備から終了までの時間の変化を数値化するのは難しいことが分かり、成果指標を職員の精神面での変化に変更した。

手順 6：実行計画を練り直そう

取組期間：11月30日～12月10日

手順 6

- 実行計画の練り直し

● 取組内容の見直し

□ Before

- ・ マニュアルを作り操作時にすぐ確認できる見やすい場所にセットした。

□ After

- ・ 職員のSASUKE操作の定着度や習熟度に応じた詳細版をプロジェクトチーム以外の人の声も聞きながら作った。



導入に関わった職員が機器を活用して良かったと感じたこと

- ご入居者及びスタッフ双方の負担が軽減できる可能性のある機器の存在を知ることが出来たことにより、ケアのオペレーションの見直しなどをする良いきっかけとなった。
- 職員の身体面・精神面での負担が軽減されたことにより、ご利用者様にかかわる姿勢に余裕が出来た。
- 移乗介助時のご利用者様の不安気な表情がなくなり、笑顔が見られるようになった。

取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと

- 新しい機器の導入については少なからず抵抗感もあったが、実際に機器に触れてみたり業者の方の説明を受けることにより思っていたよりも使いやすいものであると感じることが出来て以前よりは抵抗感は少なくなった。
- 販売業者さんからの直接の実演を交えた研修は職員のモチベーション向上に繋がったと思う。
- 私の施設の場合は、機器導入に不安や心配があっても、皆さんが協力してくれたおかげで、今回ここまで辿りつけたと思います。

次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

- 「次世代介護機器」と聞くと、非常に高度で取り扱いが難しいものだと思われるかもしれませんが、実際に見て触ってみるととても便利で、思ったよりも扱いやすいものです。新しいものの導入には抵抗感がある方もいるかもしれませんが、まずは業者さんに現在の困りごとなどを相談をしてみてはどうでしょうか？ 困りごとにあった機器の提案をしてくれるかもしれません！
- 介護機器を導入したいと考えた経緯を忘れずに自分達の中で持ち続けること、現場の状況を見るとなかなか進めにくい時もあるかもしれませんが、諦めないで少しずつでも継続して進めていくことが大事。

～ご清聴ありがとうございました～